

## 海洋プラスチックごみ問題に対する富士通グループのアプローチ

2018年7月  
富士通株式会社

海洋プラスチックごみは広く海洋に拡散し、多くの海洋生物へ被害が及んでおり、生態系への影響も懸念されています。富士通グループは、グローバルに拡大している海洋プラスチックごみ問題を気候変動に続く重要な地球環境課題の一つと認識し、この課題の解決に向け「自社に関わるプラスチック廃棄物の削減」及び、社会との Co-creation（共創）による「海洋プラスチックごみ削減に向けた活動」に取り組み、その削減に貢献していきます。

### 【背景】

#### 海洋プラスチックごみ汚染の広がり

過去半世紀で世界中のプラスチック使用量は約 20 倍に増加しており、少なくとも年間 800 万トンのプラスチックごみが海洋に投棄されています。現状のペースでプラスチックの廃棄が増加すると、2050 年までには、海洋のプラスチックごみは魚類よりも多くなると報告されています<sup>1)</sup>。また、水深 6000m 以上の深海でもプラスチックが確認されており<sup>2)</sup>、海洋のプラスチック汚染は広範囲に拡散しているといえます。



#### 海洋生物への影響

このような海洋プラスチックごみの汚染は、海洋生物に深刻な影響を及ぼしています。クラゲをえさとするウミガメは、海に浮かぶプラスチック袋を食べ死に至ることがあり、世界中のウミガメの 52% がプラスチックの破片を食べていると推定されています<sup>3)</sup>。海岸に打ち上げられたクジラの胃の中から大量のプラスチックごみが見つかった例や多くの海鳥がプラスチックを誤飲していることが報告されており、海鳥の体内からは、袋、ボトルのふた、合成繊維、劣化した破片など様々なプラスチックが見つかっています。このように、カメ、クジラ、アザラシ、鳥類、魚類を含む多くの海洋生物が、海洋プラスチックごみを摂取していると考えられています。



#### マイクロプラスチックの影響

海洋プラスチックごみとして、直径 5 ミリ以下の微小なプラスチック粒子も見つかっています。これらは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、日本周辺海域でもそれらの存在が確認されています<sup>4)</sup>。マイクロプラスチックは海洋中の有害化学物質を吸着する性質があり、食物連鎖を通じ生態系に影響を及ぼすことも懸念され<sup>5)</sup>、自然環境そして人の生活環境への拡散・影響について多くの調査・研究が行われています。

## 【富士通グループの取組み】

### 自社に関わるプラスチック廃棄物削減

富士通グループは、かねてより事業活動に関わるプラスチック使用及びプラスチック廃棄物の削減に取り組んできています。当社グループが開発する ICT 製品に関しては、製品への再生プラスチック・再生容易プラスチックの利用、製品の梱包材のプラスチックから紙材料への転換を推進しています。また、製品の部品点数削減、部品の小型・薄型・軽量化、高密度実装による小型化などの取組みを通して、小型・軽量化を実現しています<sup>6)</sup>。

使用済み ICT 製品については、日本全国をカバーする回収・リサイクルシステムを構築し、全国 5 拠点の富士通リサイクルセンターに集約し処分を行い、高い資源再利用率を達成しています<sup>7)</sup>。

事業所から発生する廃棄物に関しては、それを貴重な資源として捉え、そこから資源を回収またはエネルギー源として利用する取組みを継続しており、廃棄プラスチックに関しては、その約 96%を有効利用しています<sup>8)</sup>。

**13.3 型モバイル PC  
(LIFEBOOK UH75/B3)**  
 バッテリーケースフレーム構造を見直し、  
 2年連続世界最軽量を達成



### 海洋プラスチックごみ削減に向けた活動

前述のように富士通グループの使用済み ICT 製品及び、事業所から発生する廃棄物に関しては適正処理に向けた活動を実施しています。さらには、重要な地球環境課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に積極的に貢献することが重要であると認識しています。

そこで、富士通は、海洋プラスチックごみ削減につながる再生プラスチックの活用を促進するイニシアチブへの参加に向けて検討を開始しました。このようなイニシアチブへの参加や活動の支援を通して、海洋プラスチックごみ削減への貢献を図っていきます。

また、海洋プラスチックごみの削減に向けては、プラスチック製品を使用するひとりひとりの意識変化も重要であると考えています。そこで、海洋プラスチックごみが重要な地球環境課題であることの認識の拡大に向け、児童向け動画の作成・公開・普及、社員向けセミナー・ワークショップ開催、及び展示会・社内イベントでの周知など通し、その重要性を社内外に発信していく予定です。

以上

#### 参考情報

- 1) ELLEN MACARTHUR FOUNDATION 「The New Plastics Economy: RETHINKING THE FUTURE OF PLASTICS」
- 2) UNEP 日本語情報サイト <http://ourplanet.jp/worlds-deepest-ocean-trench>
- 3) UNEP 日本語情報サイト <http://ourplanet.jp/fatal-attraction-turtles-and-plastic>
- 4) 環境省「海洋ごみとマイクロプラスチックに関する環境省の取組」
- 5) 環境省「海洋ごみとマイクロプラスチックに関する環境省の取組」
- 6) 富士通公開サイト <http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/resourceefficiency/index.html>
- 7) 富士通公開サイト <http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/recycleinfo/facilities/>
- 8) 富士通公開サイト <http://www.fujitsu.com/jp/about/environment/operation/waste/>